

9. 2026年度日本数学会賞春季賞、出版賞の授賞について

【春季賞】

日本数学会賞受賞候補者選考委員会からの選考結果報告に基づき、春季賞は九州大学大学院数理学研究院の目下部佑太氏に授賞されました。授賞理由は、
‘岡多様体の新しい特徴付けと高次元球外部の岡性’

(英訳：New characterizations of Oka manifolds and Oka property of high-dimensional ball complements)

に関する業績です。また、3月24日に東京理科大学において授賞式並びに同氏による‘幾何学的岡理論’と題する受賞記念総合講演が行われました。

【出版賞】

出版賞選考委員会からの受賞候補者選考結果報告に基づき、出版賞はつぎの方々に授賞されました。授賞式は3月24日に東京理科大学において行われました。

浦川 肇氏

授賞理由：浦川氏は、微分幾何学における幅広く重厚な研究を基盤として、数多くの良書を著し、幾何学を専攻する学部生・大学院生の教育と研究に多大に貢献した。特に、調和写像理論が急速に発展した1990年代初頭に執筆された「変分法と調和写像」は現在も読み継がれ、英訳版も出版された優れた教科書である。また、連続と離散の理論を結び付ける「ラプラス作用素とネットワーク」をはじめとして、数学の工学的応用も視野に入れた書籍も複数執筆している。さらに近年では、藤原松三郎氏の古典的名著「微分積分学」、
「代数学」を高木泉氏、藤原毅夫氏と共に現代仮名遣いに改めた新編として刊行し、日本の数学文化の継承にも尽力している。浦川氏の長年にわたる精力的な出版活動は、日本数学会出版賞に相応しい功績である。

ヨビノリたくみ氏、ヨビノリやす氏

授賞理由：2017年に開設されたYouTubeチ

ャンネル <予備校のノリで学ぶ「大学の数学・物理」>(略称：ヨビノリ)は、「理系の理系離れを防ぐ」という理念から数学・物理の大学学部レベルの講義動画を配信している。黒板を用いた伝統的なスタイルで、ユーモアを随所に忍ばせた講義は、大変見やすく編集されており、作り手の熱意と真剣さが伝わるものである。また、学術対談シリーズなどの「誰にでも分かるではなく、分かるようになりたい動画」は、数学を含む理系分野のアウトリーチの重要な観点である、学ぶ動機を喚起する内容として高い価値を持つ。ヨビノリの活動は、YouTube というメディアの特質を活かし、誰もがアクセスしやすい形で数学の教育・普及に大きく貢献してきたものであり、本賞にふさわしい。